

第一系列 高い福音

第三題目 召会生活は真の団体生活である

ヨハネ 13:34 私は新しい戒めをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。私あなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

35 あなたがたが互いに愛し合っているなら、これによって、すべての人は、あなたがたが私の弟子であることを知るようになる。

団体生活に対する願いは、 神が創造されたものである

人はみな団体生活を願います。この願いは私たちの天然の構成から来ています。私たちの天然の構成、天然の命の中で、私たちはみな群れになって、団体の中で他の人と一緒に生活することを願います。

創世記 1 章 26 節で神はまず「人を創ろう」と言われ、そして「彼らに管理させよう」と言われました。前半の「人」は単数ですが、後半の「彼ら」（「人」の代名詞）は複数です。神は一人の人を創ったのでしょうか、あるいはたくさんの人を創ったのでしょうか？ 答えは、神は一人の中でたくさんの人を創ったのです。あるいは神の創った一人の人はたくさんの人を含んでいるということもできます。これは、神の御心の中で、人は団体的だという意味です。神は一人のアダムを創り、一人のアブラハムを創り、一人のダビデを創ったわけではありません。神は一人の団体の人を作りしました。この一人の人の中に、すべての人は含まれます。神の御心の中で、彼が行った事は、一つの団体的な事柄です。ですから私たちは、団体の生活に対する願いは、神が人の中に造られたものであることを見なければなりません。

召会生活は真の団体生活である

キリストの中で、私たちみな同じ命を持っています。そしてこの同一の命によって、私たちは同一の性質と願いを持っています。私たちは救われた後、すぐに内側から他の真のクリスチャンと接触し、交わることを願います。これは団体生活に対する願いです。召会生活は真の団体生活です。

キリストは私たちの共通の要素と命であり、 私たちが互いに愛し合うようにさせる

私たちはもしある種類の生活をしたいなら、必ずある種類の命がなければならぬことを知らなければなりません。神は人を創って、人に団体生活を願う命を与えられましたが、この

命は破壊され、毒されました。そのため一面私たちは神の創った生まれつきの性質があり、人と一緒に生活すること願いますが、もう一面、私たちの人の命はサタンによって破壊され、変質させられたため、私たちの墮落した性質の中で、団体生活にふさわしい命がありません。

しかし今私たちはキリストを持っています。キリストは素晴らしいです。彼は共通の要素、共通の元素です。私たちを団体の生活の中で一にし、互いに愛し合わせます。私はすべての兄弟たちの名前を知らないにもかかわらず、私は彼らを非常に愛しています。彼らが主の中の兄弟だからです。すべての兄弟の中に一つの共通の元素があつて、この元素はキリストです。キリストは私たちに互いに愛し合わせる元素です。さらにキリストは私たちの中の命です。この命には私たちが互いに愛し合わせる力があります。

詩歌 補充本 809 奉仕と福音—高い福音

- わたしはひと、宇ちゅうの意義です。
わたしはひと、宇ちゅうの意義です。
そのように創造され、
わたしは宇ちゅうの中心、意義です。
- キリスト、わたしの人生の意義。
キリスト、わたしの人生の意義。
わがうちに生きて、
キリストはわが人せいの実さい。
- しょうかい、地じょうでの主の表現。
しょうかい、地じょうでの主の表現。
団たいのひととし、
ご計かく成就し、全地を支はいす。
- 地方召会、真のあたらしい家ぞく。
地方召会、真のあたらしい家ぞく。
キリスト食べ飲み、
地方召かいとして建ぞうされる。
- われらは行き、ふく音を述べる。
われらは行き、ふく音を述べる。
地のひと弟子とす、
この知らせを地にひろげましょう。

#8 神の王国の発展

(国際長老責任者訓練)2018/12/31-2019/1/6

I. ルカによる福音書は、肉体と成ったイエスの務めを書いたものであり、肉体と成ったイエスの地上での記録です。使徒行伝は、天上の復活し昇天したキリストが、地上の彼の信者たちを通して、彼の継続する務めを執行することの記録です:

A. 福音書で、地上での主の務めは、主ご自身によって遂行されて、彼ご自身を王国の種として彼の信者たちの中へとまきました。召会はまだ建造されていませんでした。

B. 使徒行伝で、天上での主の務めは、彼の復活と昇天において彼の信者たちを通して遂行され、彼を神の王国の発展として拡大させ、全世界の至る所で召会を建造して、彼らのからだ、すなわち彼の豊満を構成して彼を表現し、さらには神の豊満へと至って神を表現します。

II. 神の王国は、使徒行伝における使徒たちの宣べ伝えの主題です。このことは、復活したキリストが四十日の期間を通して使徒たちに現れ、彼らに神の王国に関して語ったという事実によって示されています:【月】

A. 福音書で、主イエスご自身が王国の福音を宣べ伝えました:

① 神の王国は、命の種としての救い主が、彼の信者、すなわち、神の選ばれた民の中へとまかれて、一つの領域へと発展したものです。そこにおいて神は神聖な命の中で、彼の王国として支配することができます。

② 神の王国への入り口は、再生です。王国の発展は、信者たちが神聖な命において成長することです。

③ 神の王国は、今日の召会生活であり、その中で忠信な信者たちが生活しています。それは発展して、来たるべき王国となり、勝利を得た聖徒たちが千年王国において受け継ぐ褒賞となります。

④ 最終的に、神の王国は新エルサレムにおいて究極的に完成し、神の永遠の王国、すなわち、神の永遠の命の永遠の祝福の永遠の領域となり、神の贖われた民すべてが新天新地において永遠にわたって享受します。

⑤ 神の王国は、救い主が福音、良きおとずれとして、神の命から遠ざかっていた者たちに告げ知らせたものです。

⑥ ルカ第17章20節から21節における主の言葉が示しているのは、神の王国が物質的なものではなく、霊的なものであるということです。救い主は彼の一度目の来臨において、彼の二度目の来臨において、勝利を得る彼の信者たちの携え上げにおいて、彼が反キリストを滅ぼすことにおいて、全地を回復し、そこで王として支配します。

⑦ 神の王国は、救い主ご自身です。彼はパリサイ人のおられましたが、今や信者たちの内側におられます:

a. どこであれ救い主のおられる所には、神の王国があります。神の王国は彼と共にあり、彼はそれを彼の弟子たちにもたらしめます。

b. キリストは、神の王国の種であり、神の選ばれた人々の中へとまかれ、発展して、神の支配する領域となります。

c. 彼は復活の後、彼の信者たちの内側にいます。こういって、神の王国は召会の内側にあります。【火】

B. 使徒第1章3節で、主イエスは復活の中の方として、弟子たちが神の王国に関するそのような正しい認識を持つように助けていたに違いありません:

① 弟子たちが見始めたのは、神の王国はキリストが命として信者たちの中で拡大することであるということと、

神の王国は命としてのキリストが彼の信者たちの中で増殖して、領域を形成し、その中で神がご自身の命において支配するということであるに違いありません。

② 弟子たちは、自分たちが今やキリストの増殖、拡大の一部分であるゆえに、神の王国の一部であるということを確認に理解したに違いありません。【水】

III. 神の王国は、キリストが命として彼の信者たちの中に拡大して、神が彼の命の中で王として支配する領域を形成することです:

A. この王国の中へと入るために、人々は自分の罪を悔い改め、福音を信じる必要があります。それによって彼らの罪が赦され、彼らは神によって再生されて、この王国の神聖な性質と符合する神聖な命を持ちます。

B. キリストにあるすべての信者は、召会時代にこの王国にあずかり、神の義、平和、聖霊の中の喜びにおいて、神を享受することができます。

C. 神の王国は来たるべき王国時代に、キリストと神の王国となります。それは勝利を得た信者たちが受け継ぎ、享受して、キリストと共に千年の間、王として支配するためです。

D. 神の王国は永遠の王国であり、神の永遠の命の永遠の祝福となり、神のすべての贖われた者は新天新地で永遠にわたって享受します。【木】

IV. 召会と神の王国は同行します。復活したキリストの増殖によって生み出された諸召会は今日、地上における神の王国です:

A. 復活したキリストは昇天において、その霊によって、弟子たちを通してご自身を増殖しており、神の王国の実際です。神の王国は神の拡張です:

① 諸召会は、来てご自身を神の王国の種としてまいったキリストの拡張です。このことは福音書で啓示されています。

② 福音書で、キリストは王国の種でした。使徒行伝には、この種の増殖があり、神の王国としての諸召会を生み出します。

B. 私たちは諸召会の中でキリストの増殖、またキリストの拡張であり、私たちは神の王国を拡大しています。【金】

V. 使徒第14章22節でパウロは、その信仰にとどまっている信者たちに、私たちが神の王国に入るためには、多くの患難を経なければならぬことを認識するよう、懇願しました。なぜなら、全世界は、私たちがそこに入るのに反対するからです。神の王国に入るとは、王国としてのキリストの完全な享受の中へと入ることです。

VI. 使徒第19章で私たちは、神が地上で神の王国を拡大することに対してサタンが戦っているのを見ます。キリストの増殖のための優勢な務めは、神の王国のための戦い、戦闘です。

VII. 使徒第28章31節でパウロが神の王国を宣べ伝えていることは、復活し、昇天した、すべてを含むキリストの増殖でした:

A. このことは、「主イエス・キリストについての事柄を教え」という言葉によって証明されます。その事柄は、神の王国と同行します。

B. キリストについて教えることは、神の王国を拡大することです。ですから、神の王国とは、実は復活したキリストの増殖です。この過程は今日、信者たちを通して継続して実行されています。【土】

Crucial Point①:内側の命の種を成長させることによって、神の支配する領域である神の王国を発展させる
OL1:ルカ第17章20節から21節における主の言葉が示しているのは、神の王国が物質的なものではなく、霊的なものであるということです。

ルカ17:20 さて、神の王国はいつ来るのかとパリサイ人から尋ねられたので、イエスは答えて言われた、「神の王国は見える様では来ない。21 また人々が、『見よ、ここだ!』『あそこだ!』と言うものでもない。なぜなら、見よ、神の王国は、あなたがたの間にあるからだ。」

OL2:神の王国は、救い主ご自身です。彼はパリサイ人の間にいらっしゃいましたが、今や信者たちの内側におられます。

神の王国への入り口は、再生です。王国の発展は、信者たちが神聖な命において成長することです。神の王国は、今日の召会生活であり、その中で忠信な信者たちが生活しています。それは発展して、来たるべき王国となり、勝利を得た聖徒たちが千年王国において受け継ぐ褒賞となります。最終的に、神の王国は新エルサレムにおいて究極的に完成し、神の永遠の王国、すなわち、神の永遠の命の、永遠の祝福の、永遠の領域となり、神の贖われた民すべてが新天新地において永遠にわたって享受します。神の王国は、救い主が福音、良きおとずれとして、神の命から遠ざかっていた者たちに告げ知らせたものです。

神の王国についてパリサイ人によって出された質問に対する主の答え(ルカ17:20~21)が示しているのは、神の王国が物質的なものではなく、霊的なものであるということです。救い主は彼の一度目の来臨において、彼の二度目の来臨において、勝利を得る彼の信者たちの携え上げにおいて、彼が反キリストを滅ぼすことにおいて、全地を回復し、そこで王として支配します。

ルカによる福音書第17章22節から24節は、神の王国は救い主ご自身であることを証明します。彼は王国についてパリサイ人によって尋ねられたとき、彼らのおられたのです。どこであれ救い主のおられる所には、神の王国があります。神の王国は彼と共にあり、彼はそれを彼の弟子たちにもたらしめます。キリストは、神の王国の種であり、神の選ばれた人々の中へとまかれ、発展して、神の支配する領域となります。彼は復活の後、彼の信者たちの内側にいます。こういうわけで、神の王国は今日、召会の内側にあります。

適用:中高生、大学生編

人であればクリスチャンであるべきです。クリスチャンであれば正常な召会生活の中で勝利者になるべきです。人がいったん主を信じると、永遠の裁きから解放されます。この点ではあなたにはもう問題はありません。主を信じた後の問題は、敗北のクリスチャンとなり一千年間暗闇の中で訓練を受けるか、勝利を得たクリスチャンとなり主と共に一千年間共同の王として支配するかということです。あなたはすでに主を信じクリスチャンとなったのですから、勝利者になることを目指す必要があります。

勝利を得たクリスチャンになるために、あなたは神の統治の下での召会生活、王国の生活を送り、あなたの内側の命の種である主イエスを成長させる必要があります。内側の命の種を成長、発展させることで、神の支配である王国は発展していきます。

具体的には、あなたは次のことを毎日実行してください。

- i. **毎朝復興:**毎朝10~20分の時間を聖別し、御言葉を祈り読みし、祈ってから学校に行ってください。学校に行くと、毎日さまざまな試練があなたを待ち受けています。これらの試練に正しく立ち向かい、正しく対処するために、あなたは必ず神の御言葉を祈り読みし、キリストを享受しなければなりません。主イエスは、「誘惑に陥らないように、目を覚ましていなさい。(マタイ26:41)」と言っておられます。あなたが目を覚まして祈るために、必ず毎朝復興が必要です。毎朝食事をするように、毎朝御言葉を食べてください。御言葉の供給なしに目を覚まして祈ることは不可能です。一番良い祈りは御言葉を自分に適用して祈ることです。
- ii. **献身を更新し、学校生活をささげる:**若い時に献身を更新して、自分自身のための人生を送るのではなく、主と召会のために自分の人生を送ることを考慮し、主の御前で祈り、あなたを導いている兄弟姉妹やあなたの霊的パートナーである兄弟姉妹と交わってください。そうすればあなたは神のエコノミーの焦点とゴールがキリストと召会であることを理解するでしょう。このことで無理して何かを行なうのではなく、主と兄弟姉妹と、学校生活や将来のことについて祈りの中で交わる必要があります。主は必ず徐々にあなたを導いてくださいます。あなたが祈りの中で、神のエコノミーの中の将来設計を持つことができますように!
- iii. **祝福する魂は栄え、人を潤す者は自分も潤される(箴言11:25):**あなたはキリストをエンジョイして内側の命の種を成長させながら、同時にキリストを持って周りの人を祝福してください。祝福する人は豊かな人です。内側の命の種を成長させているクリスチャンは、皆非常に豊かな人です。したがってあなたは他の人を祝福することができます。一般的に言って、他人に与えれば与えるほど自分の分は減ります。しかし神の祝福は無尽蔵であり、使い尽くすことはできませんので、あなたは他人を祝福すればするほど、自分自身も祝福されます。もう一度言います、あなたは他の人を祝福することができます。この点で、あなた自身の狭い観念や個人主義から救われますように。
- iv. **祈り:**「おお主イエスよ、毎朝あなたの御言葉を祈り読みし、主を享受することで新しい開始を持たせてください。毎日少しずつ成長し、私の召会生活において神の統治が増し加わりますように。また私は自分が受けた祝福を他の人に流すことができますように。既に救われている私は勝利者になることを目指して前進します。主よ、私の学校生活を祝福してください。」

詩歌:751 王国 — 訓練と褒賞として (英947)

- 1 いま、かみのくにはくん練である、
やがて主の統治のときには、
大いなる褒美となるを知れば、
ご計かく成るため訓練受く。
- 2 王となるために生まれたわれら、
王となるため、訓練はひつ要。
王こくで支配するすべを知り、
すべてのうえで王権、表現す。
- 3 御座にふくするをこの日まなび、
ご自身の統治と生かつ知る;
さらば主のけん威にあずかり、
御子とともに王権、行使する。

Crucial Point②: 召会生活は神の王国のための戦いである

OL1: 使徒第14章22節でパウロは、その信仰にとどまっている信者たちに、私たちが神の王国に入るためには、多くの患難を経なければならぬことを認識するよう、懇願しました。なぜなら、全世界は、私たちがそこに入るのに反対するからです。神の王国に入るとは、王国としてのキリストの完全な享受の中へと入ることです。

使徒14:22 弟子たちの魂を堅固にし、その信仰にとどまるよう彼らに勧め、「私たちが神の王国に入るためには、多くの患難を経なければならぬ」と言った。

OL2: 使徒第19章で私たちは、神が地上で神の王国を拡大することに対してサタンが戦っているのを見ます。キリストの増殖のための優勢な務めは、神の王国のための戦い、戦闘です。

使徒19:9 しかし、ある者たちはかたくなで聞き入れず、会衆の前でこの「道」の悪口を言ったので、パウロは彼らから退き、弟子たちをも引き離して、ツラノの講堂で毎日論じた。…23 さてそのころ、この「道」についてただならぬ騒動が起こった。24 銀細工人でデメテリオという名の者が、銀のアルテミス小神殿を造って、職人たちにかんりの利益を得させていた。25 彼は職人たちと同業の労働者たちをも呼び集めて言った、「みなさん、私たちがこの商売でもうけていることを、あなたがたは知っています。26 ところが、あなたがたが見聞きしているのは、エペソだけではなくアジアのほとんど全域で、このパウロが、手で造られた神々は神ではないと言って、大勢の人を説得し、惑わしてきたことです。27 これでは、私たちの仕事の評判が悪くなる恐れがあるだけでなく、偉大なるアルテミスの女神の宮までもないがしろにされ、アジア全体と人の住む全地が礼拝する女神のご威光までも、覆されることになります」。

もしあなたの働きが真に優勢であるなら、最終的にこの優勢であることは暗やみの力の中心に触れるでしょう。エペソにおいて暗やみの力の中心は女神アルテミスの宮でした。エペソ人が主にある信者になればなるほど、この宮の持っている影響力は弱くなっていきました。一見して、その騒ぎはある職人たちによって起こされました。実際には、その背後にいた悪鬼どもによってかき立てられたのです。

私たちの務めは、神の王国としての復活したキリストを増殖させることです。しかし今日、あらゆる都市は悪魔の王国です。ですから、キリストを増殖するための優勢な務めは、神の王国のための戦い、戦闘です。全地は暗やみの王国です。もし私たちが、働きを遂行するときに心優しく穏やかであり、すべての人を喜ばせようとするなら、どれほど長く一つの場所にとどまっても、何の反対も起こらないでしょう。私たちの務めが真に優勢であるなら、反対に遭う運命にあります。

私たちはみな、神とサタンとの戦いが激烈であることを認識する必要があります。ですから、私たちが行なうことは何であれ、絶対に神の王国の側のものであること、何ものも暗やみの王国に巻き込まれないことを、確信している必要があります。

使徒第28章31節は、二年の間、パウロがローマで借りた所に住み、「大胆に、妨げられることなく、神の王国を宣べ伝え、主イエス・キリストについての事柄を教え続けた」と言います。神の王国はこの書の強調の一つです。ルカの文書は神の王国をもって始まり、神の王国をもって終わります。

適用: 青年在職/大学院生編

あなたが真剣にキリストと召会のためであるなら、敵からの反対や攻撃を避けることはできません。召会生活は王国の生活であり、サタンの王国をひっくり返すためにあるので、反対は避けられません。しかしあなたは反対を恐れて中途半端な召会生活を送ってはいけません。中途半端になるとはバビロンの原則に従うことであり、神の目にはサタンの計略にはまりサタンに従うことです。次の御言葉を読んでください。

啓12:7 さて、天では戦いがあつた。ミカエルとその御使いたちが、龍と戦つたのである。龍とその使いたちは戦つた。8 しかし、彼らは勝てなかつた。そして、天にはもはや、彼らの場所はなくなつた。9 こうして、その大きな龍、あの太古の蛇、「悪魔」とか「サタン」とか呼ばれる者、人の住む全地を欺く者は、投げ落とされた。彼は地に投げられ、その使いたちも彼と共に投げ落とされた。10 また私は、天で大きな声がこう言うのを聞いた、「今、私たちの神の救いと力と王国と、彼のキリストの権威とが来た。私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。11 兄弟たちは、小羊の血のゆえに、また彼らの証しの言のゆえに、彼に打ち勝つた。彼らは死に至るまでも、自分の魂の命を愛さなかつた。

20:10 そして彼らを欺いた悪魔は、火と硫黄の池の中へと投げ込まれた。そこには獣も偽預言者もいた。彼らは昼も夜も、永遠にわたって苦しめられるのである。

神聖な啓示によれば、サタンは火の池の中で永遠に苦しむ運命にあります。召会が建造されればされるほど、サタンは自分の究極の運命に押しやられつつあるのです。あなたは反対があるからと言って恐れてはいけません。主と召会とはあなたと共にあるので、今日ですらサタンは反対することはできても、建造された召会に打ち勝つことはできないのです。実はサタンはこのことをよく知っています。サタンの計略は、あなたが自分自身を見て、キリストと召会を見ないようにさせることです。

祈り: 「おお主イエスよ、正常な召会生活は、キリストを享受する生活であり、同時にサタンとの戦いの生活です。主の中で、またからだの中で神の王国のためにサタンに敵対して戦います。私たちが勝利から勝利へと導いてください。アーメン！」

詩歌: 召会のための献身 601(中補603)(E1248)

- 1 おもい出そう、ダビデのちかつたこと、「わがや(家)入らず、目にねむりあたえず、主のためところを見いだすまでは」。全能者の住まいを絶えずもとむ。
- 2 主のいえ、いまこう廃しているのに、何たる盲もく、主よ、われたおしませ。やま行き、木を切り、いえを建てよ。いつかと言わずに、いま建造せよ。
- 3 主よ、われらをなが建ぞうのために、ダビデの日のようけいはつしませ。主のいえ建造する、何とさいわい。ながねがいわがねがい、建造をもとむ。
- 4 建造のために、そなえするようと、なれの召しにいま、われはこたえる。建造された召かい、陰府のもんも打ち勝つことなし、主よ、建造せよ。